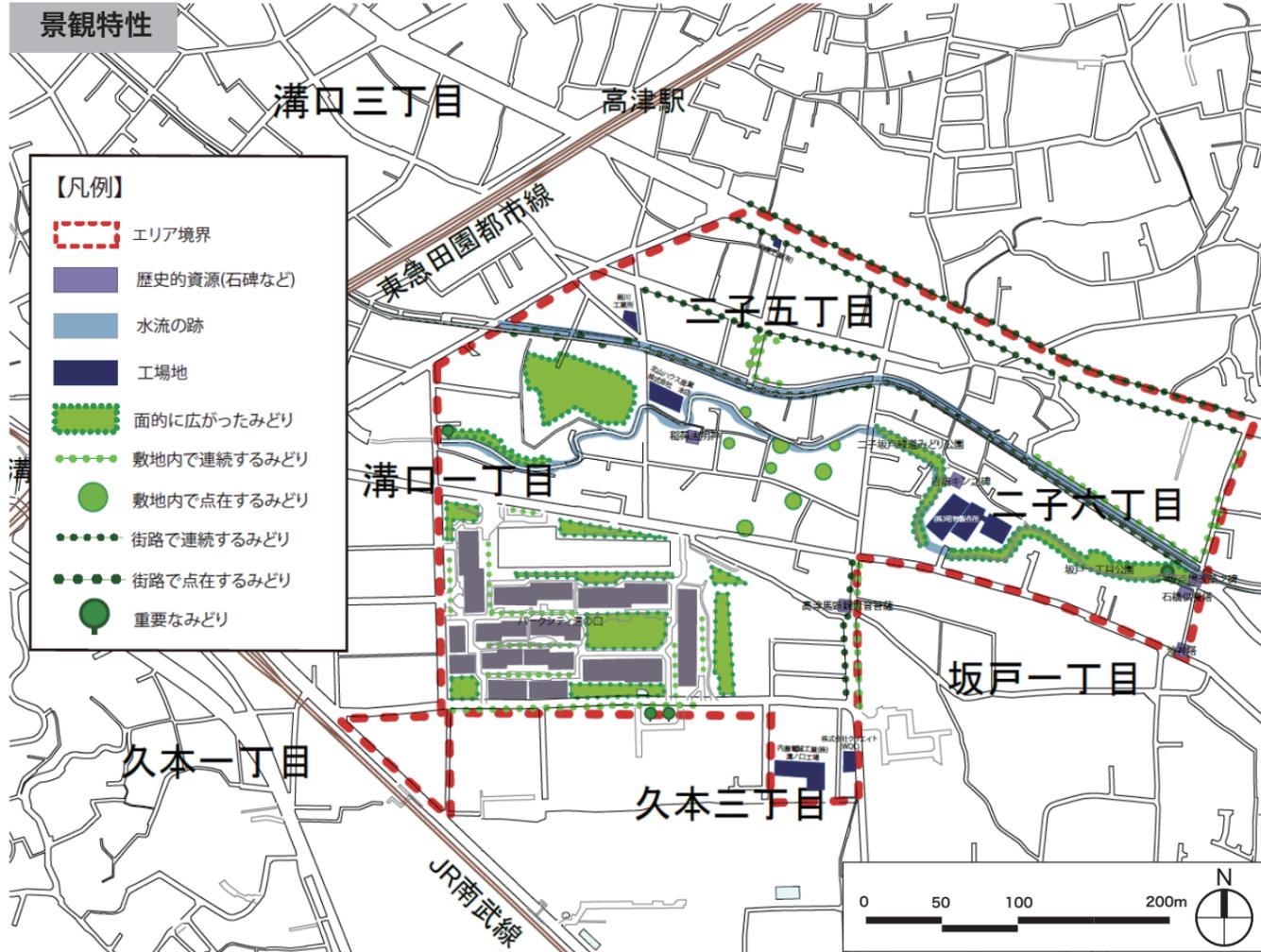


5-4 緑道・住宅団地エリア

二ヶ領用水の一部であった流路を転用した二子坂戸緑道みどり公園や坂戸一丁目公園など、随所に見られる緑がエリアの景観を特徴づけています。緑道や公園は、かつての地形や土地利用の記憶を残しながらも、連続する緑によって自然を感じられる空間となっており、団地や街路と一体となって心地よい歩行環境を生み出しています。また、かつて工場街として発展したエリアは、高度経済成長期以降の都市再編により工場跡地が住居へと徐々に転換され、現在では穏やかな住宅街が広がっています。

景観特性



1. 工場跡地から生まれ変わった団地



かつて工場が立ち並んでいたこのエリアは、産業の転換に伴い、跡地を活用して住宅団地が整備されました。住棟の間の公開空地には広場が設けられ、住民同士の交流や子どもの遊び場として活用されています。また、建物や街路に沿って植栽が施されており、緑と調和した景観が形成されています。

2. 併走する緑道と水路



二ヶ領用水(川崎堀)の流路を暗渠化して整備された二子坂戸緑道は、旧水路の蛇行形状が道の線形に活かされています。現在の二ヶ領用水の流路は、水路整理を目的に整備されたもので、水路と緑道が併走する構成となっており、この並びがこのエリアの景観を特徴づけています。

3. 入り組んだ街路が残る住宅街



旧水路周辺の住宅地には、狭く複雑に入り組んだ道や住宅配置に加え、町工場やその跡地も点在し、住宅と工業施設が混在しています。見通しのきかない通りや突き当たり、曲がり角が多く、視線の抜けが少なく、建物や道に囲まれた閉じた空間が点在し、複雑な空間の重なりを感じさせます。

景観形成の目標

連続する緑と水辺空間をつなぐ、心地よい住環境を目指したまちへ

本エリアは、連続する緑と水辺空間が広がる穏やかな住宅地である。そこで、緑と調和した景観を保ちつつ、誰もが気軽に交流できる心地よい街並みの形成を目指す。

景観形成の方針

1. 身近に自然を感じられる場として、心地よく滞在できる空間に

景観形成の考え方

日常の中で自然の変化を感じ取れる環境をつくる。既存の緑を活かし、植栽の密度や種類を見直し、四季を感じられる自然環境を目指す。



色彩や照明を増やし、通行の快適性を高める

具体的な方策

- 周辺の緑道や公園と連携し、緑の連続性を高めることで、団地内外の回遊性やつながりを強化する。
- 既存の緑に加え、低木や草花を取り入れた立体的な緑化を行い、季節感のある空間とする。
- 照明計画を見直し、夜間の安全性と通行の快適性を向上させる。

2. 水と緑の連なりが導く風景

景観形成の考え方

緑と水の連なりによって視線や人の流れを導く。緑道の蛇行形状を活用しながら、歩いても楽しい、滞在したくなる空間を形成する。



蛇行形状を活かした滞留空間の形成

具体的な方策

- 緑道の蛇行形状を活かした滞留空間を創出する。
- 水際の植栽計画を工夫する。
- 水路へ視線が抜ける緑道を設計する。

3. 視線の結節点を緑化して、緑の連続性ある街並みへ

景観形成の考え方

入り組んだ街路を活かし、突き当たりに緑を設け、緑道や水路沿いの緑と連続させることで視線を誘導する。

具体的な方策

- 細く入り組んだ道の構造を残す。
- 視線が集まりやすい突き当たり等にアイストップを設ける。
- 緑道や水路沿いの緑と連続性を持たせる。



アイストップに植栽を設ける